



これからの地域交通

菊地 忍

**問** 近・現代社会の経済発展をけん引してきた自動車は、地球環境問題やエネルギー問題などに対応するため、今後10年で電気エネルギーへの未曾有の大転換を図る機運が世界中で高まっている。それに伴い、近未来の交通体系や運用方法なども根底から変革を迫られている。このような状況の中、地域においては高齢化や過疎化が進むことで、個々の移動手段に乏しい「交通弱者」が増加することもまた明らかであり、近年多発している高齢者ドライバーによる交通事故も社会的な問題になっているが、これからの地域交通のあり方について、どのように考えているか伺う。

導入について、高齢者の移動手段の確保や観光振興など、交通の低炭素化と併せて地域の交通課題の解決策の1つと捉えるが、見解を伺う。



※グリーンスローモビリティ=電動で、時速20キロメートル未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上の乗り物。

**市民経済部長** グリーンスローモビリティについては、高齢化が進む地域の域内交通の確保策の1つとして期待できる乗り物だと考えています。しかしながら、現状を見ますと、走行区間の調整が必要であることや安全面の課題等も指摘されていますので、他の自治体の実証成果を参考に、研究してみたいと思います。

**市長** これからの地域交通は今抱えている課題であります。国においても今、言われたような電気自動車を使った新たな取組です。市としても活用できるかどうか、これから検討していきます。

地域交通課題の解決策に

**問** ※グリーンスローモビリティの



8050問題

高橋 光孝

**問** 80歳の親、子が50歳の大人のひきこもり、この8050問題をどのように捉えているか伺う。

家族の介護の力、貧困、精神のリスク、虐待のリスクの視点からアプローチをかけ、SOSを発信できるかどうかを見て、地域を回っている状況です。

**市長** 学校や企業になじめずひきこもってしまうことが多い。その結果生活困窮、そして心の不調などにつながっていく大きな家庭問題になると捉えています。

**相談しやすい環境作りを**  
**問** 大人のひきこもり8050問題は相談しづらい、毎朝起きて寝るまでどうしようと思って生活している方が多いと思う。若沼市は住みよい街ランキングで上位であるが、このような問題をきちんと相談できて、しっかり対応できるような取組をしていかなければいけないと思うがどうか。

**社会福祉課長** 2015年の調査で15歳以上のひきこもりの方は16名です。

**市長** 介護の場合は相談できますがそれ以外についてはなかなか相談できない。ノウハウを持った職員がいらないというのが現実で、人材を抱えるか、次の手段を講じていく必要があると考えており、大きな問題になる前に相談窓口をつくるということが大事だと考えていますので検討します。

**社会福祉課長** 一概に多い少ないとは言い切れないと考えます。

**問** ひきこもりと言いつけなくても悩んでいる家庭は全国の調査でも分かるように非常に多いと思う。市でしっかり調査し、相談はその方面のプロにお願いしてはどうか。

**社会福祉課長** 地域包括支援センターに、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師等の専門職がいます。

◎その他の一般質問  
・市職員の研修・調査

**問** 16名という数は、当時多いと思っただか、少ないと思っただか伺う。

**社会福祉課長** 16名という数は、当時多いと思っただか、少ないと思っただか伺う。